

# 宿縁

七月号

浄土真宗  
本願寺派

## 中原寺

TEL〇四七―三七二一〇二九二  
FAX〇四七―三七二一〇二六一

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

### 仏教を学んで

#### こころに涼風を



山門前にある掲示板の今月のことばは、  
『仏教は 永眠から目が覚める教え』  
と書きました。

世間では「永眠」というと亡くなること、死ぬことに表現されます。「死亡通知」や「会葬礼状」などによく「故人は満〇〇歳をもって永眠いたしました」、などと書かれています。皆さんはどう思われますか？

この世で仏の教え(仏法)に出遇えたものは、仏道を歩むのですから、亡くなられた方に、安らかに眠りくださいというのは、仏法で

はありません。覚醒した仏さまには安らかなお眠りなんてできないのです。眠っているのは私の正体(凡夫性)がわからずに日々を打ち過ごしている私の方なのです。

京都の花園大学で仏教を教えている佐々木閑先生に聞いた話ですが、受け持っている約6割近い人たちが社会人の聴講生です。定年退職してから学びの志をたてた元会社員の方や、家事の合間に通ってこられる主婦、あるいは仕事の役に立つからと熱心に聴講なさる心療内科の先生など、多士済々。そうしたなかで若い学生さんたちも影響されて、いつしか、本当に良い教育環境が形成されているといえます。そして社会人のみなさんに共通するのは、「仏教を学ぶ」ということを生活の一部に取り入れたことで、日常の暮らしに張りが出たと感じる点です。言い方を変えれば、繰り返しの連続で過ぎていく日常のなかに、ちょっとしただけ異質な時間を取り入れることで、暮らしに刺激が生まれるということなのです。これは、自分で自分の生き方を変えたいという覚醒(めざめ)が生まれるということと、「仏教を学ぶこと」がやがてメインとなり、それを中心にして生活全体がまわるようになるのです。

さあ、みなさんもきりのない欲望と自我にいつまでも振り回されないうで、満たされた人生へ覚醒いたしましょう。

仏教の最古の經典のひとつである「ダンマパダ」(法句経)に次のように教えています。

『見よ、飾り立てられた形体を、傷だらけの身体であり、要素が集まっただけのものである。病にかかり、勝手な思わくばかりが多くて、そこには堅実さも安定もない』

釈尊は人間を「いろいろなものが集まっただけ」の、要素の集合体と考えていました。つまり、肉体を作るさまざまな物質的要素と、心の内部を形作るさまざまな心的要素が集まって「自己」という仮の存在を生み出しているだけで、「絶対不変の自己」などというものはどこにも存在しない、ということなのです。

「自分とは変わらない」と思い込んでいる人ほど、自分という存在を絶対視しています。今の自分は確固とした不変の存在であり、どれだけ努力をしても変えることができない、と思うならば、そんな自己の認識が誤りであることは、釈尊の教えが証明しています。自己とは、かりそめの存在で、常に変わり続けている。その変化を、自分の意思と行動でコントロールすることで作り変えていくことが可能なのです。

この、「この世のすべては時々刻々と変化するものであり、永遠不滅の存在など、どこにもない」という教えを、仏教では「諸行無常(しよぎょうむじょう)」と言います。また、「この世に『私』という絶対の存在など、どこにもない」という教えを「諸法無我(しよほうむが)」と言います。

「諸行無常」と「諸法無我」は、人が苦しみを離れ、満たされた人生を生きるために

は、欠かせない考え方なのです。

仏教つまり釈尊が説かれた原始 仏教は、外の力に頼らず自分の力で道を切り開くことを基本的スタンスにしています。しかしすべての人が救われていくべきだとの考えから、力ないものが仏と成るには、超越的救済者(如来)の助けを前提とする道が大乗仏教として説かれました。その流れを受け継いだのが浄土教であり、日本仏教であり、特に親鸞聖人によってその教えは深められました。

親鸞聖人によると、永遠である仏の本質は智慧と慈悲を体得した救済活動をいうのであり、限りある人間の能力を超えた不思議なはたらきが、絶えず今ここにきて私をして目覚めさせ、仏のいのちに変えさせるといえるのです。そして仏の救済活動は「有縁を度してしばらくも、休息あることなかりけり」(浄土和讃)なのです。

この如来(仏)のはたらきに身を預けることを信心と言います。在家仏教を提唱し、科学者であり、協和発酵会長で念仏者と知られた加藤弁三郎氏は次のように語っています。

「私たちは始めから不思議な力によって生かされているのです。自も他もない力で。その力は、いざこを始め、いざこを終わりとすることはできません。永遠にはたらくづめの力なのであります。私はその力によっていまここに現れているのであり、やがて、その力そのものに帰って、一味となるにちがいありません。親鸞聖人はこれを如来の本願力とお受けになったようであります。本願力とはそれをいうのでありましよう」と。

本願力に目を覚ますと、人生が変わります。

【寄稿】

○原爆死没者慰霊碑、国連憲章前文、

二つのwe(われわれ/われら)

—原山建郎さん

1996年、「負の」世界遺産として登録された原爆ドーム(広島平和記念碑)を正面に望む、アーチ形の原爆死没者慰霊碑の前で、私は静かに手を合わせた。「安らかに眠ってください 過ちは 繰り返しませぬから」という碑文は、自らも被爆した英文学者で広島大学教授・雑賀忠義さんが、昭和24年、当寺の広島市長から要請を受けて撰文、揮毫したものである。公式訳は Let all the souls here rest in peace for we shall not repeat the evilだが、文中のwe(われわれ)は原爆を投下したアメリカを指すのか、連合国と戦って負けた日本を指すのか、あるいは「われわれ=人類」を指すのか、we(主語)をめぐる論争はいまも絶えない。

ところで、2010年、雑賀さんが書いた和紙と三枚の色紙に碑文の原文、二種類の英訳が発見された。色紙の英訳は公式訳と同じもの、和紙には英訳後半が、for to repeat tha fault we shall cease と書かれていた。原山流の直訳では「過ちの繰り返し(戦争の手段としての原爆の投下)を、我々は終わらせなければならぬ」となる。ここで気になるのが、公式英訳が「(責任を伴う)過ち」を意味するfaultでなく、「(悪)邪」のevilを用いたことだ。これらは、日本がサンフランシスコ講和条約に署名する昭和26年の2年前に作成された英文案であったことから、あくまでもこれは私見であるが、アメリカの過ちへの言及を避け、当時ま

だ占領下にあった日本流の「忖度」だったかもしれない。

……(中略)

和紙に書かれた英訳を、もう一度原山流に和訳した「過ちの繰り返し(戦争の手段としての原爆の投下)を、我々は終わらせなければならぬ」という、被爆者の願いを「伝える」ためには、北朝鮮の核攻撃も辞さないとすごむ、トランプ大統領のアメリカなど核兵器国の we(われら=連合国)に「伝わる」言葉で、共に行動する we(われわれ人類)の一員に加わってもらう必要がある。ただしwe(われら)に「聞く耳」があれば、の話だが…

【寺灯雑記】

○みのり会で落語と公開講座を開催

6/12

千葉組の仏教婦人会連盟「みのり会」の一日研修会及び新たな試みとして公開講座が千葉市の千葉県教育会館大ホールを会場に開催され、約310名が集いました。午前の部は上方落語協会会長の笑福亭仁智さんの創作落語「親鸞聖人」を楽しみました。午後からは広く一般の方々にも呼びかけての公開講座とし、講師に種村健二朗医師が講題「死ぬ苦しみからの解放」く幼い子どもたちに『親が死ぬこと』を伝えるの講演を聞きました。種村医師は国立がんセンターにお勤めの頃から「がん患者・家族語らいの集い」や「東京ビハラー」設立等に活動され、「死ぬ苦しみからの解放へのみち」を親鸞思想ではどのように説いているかに取り組みされて

います。

近頃はようやく、医師として死にゆく患者さんと死生観を共にするべく仏教思想の大切さが叫ばれるようになりました。生に執着し、生のみを追って行く現代人のあり方に大きな警鐘を鳴らすお話でした。当寺からも婦人会、壮年会員を含め16名が参加し、心新たな思いを共有しました

【イベントのご案内】

☆中原寺ファミリーパーティー

\*日時：七月二十九日(日) 一時半受付

・会場：開法会館(第1部) 二時

三遊亭歌奴師匠による落語

ミニコンサート(コーラスユニット)

・会場：駐車場(第2部) 三時半

各種模擬店、ゲーム、盆踊り、お楽しみ抽選会など。

・参加費：大人1000円

子供(小学生)無料

(飲食は無料、アルコール類有料)

恒例の夏のイベント「ファミリーパーティー」の季節がまいりました。今年も落語協会所属の真打三遊亭歌奴さんをお招きし、暑さを笑いで吹き飛ばします。また美しい女性コーラスのミニコンサートが開かれます。

その他にも美味しいものいっぱい各種模擬店、みんなで盆踊り、ゲーム、抽選会などをとお楽しみいただきますようお待ちしております。気軽な服装で、ご家族お友達にもお声をかけていただき奮ってご参加ください。

(雨天決行)

☆孟蘭盆会法要

(並びに全戦没者追悼法要)

\*日時：八月十一日(山の日、祝日)

午前十時から

・重誓偈

・仏説阿弥陀經

・仏教讃歌(みほとけにいだかれて)

・法話 白川憲仁師(世田谷正法寺)

亡き人を偲びつつ、お浄土への道を歩ませていただけるよう仏法聴聞の大切な法要です。親類縁者ともどもにご参詣ください。

◇築地本願寺での帰敬式受式希望者へ

本年十一月十五日・十六日の両日、築地本願寺の報恩講中に門主により帰敬式が行われ法名が授与されます。ご希望の方は冥加金25000円と印鑑を持参、8月末までに当寺へお申し込みください。

【七月の法座・行事のご案内】

○婦人会法座(曇鸞大師)

七日(土) 一時

○壮年会法座(日常語になった仏教語)

七日(土) 三時

○子育てサロン

九日(月) 十一時

○いのちの居場所を考える会

十日(火) 十時

○常例法座

十六日(日) 一時

○門信徒会役員会

十六日(日) 三時半

○和讃に学ぶ(仏智疑惑讃)

二十一日(土) 三時

【七月の掲示板のことば】

仏教は 永眠から目が覚める教え